

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直しの動きが続いている。

最終需要面をみると、個人消費は持ち直しており、設備投資は持ち直しつつある。公共投資も、持ち直しの動きがみられる。こうした状況下、雇用情勢も持ち直しの動きが続いている。一方で、住宅投資は、弱めの動きを示している。

2. 最終需要の動向

(設備投資)

設備投資は、持ち直しつつある。

(個人消費<含む観光>)

主要小売店の売上高(10月、10社)は、食料品や冬物等の衣料品の売れ行きが良かったことから、持ち直した。

耐久消費財の売行きをみると、家電販売がテレビの買換え需要の反動から大幅に減少したものの、乗用車販売(新車登録届出台数、11月)が、震災後の供給制約の緩和から引き続き持ち直している。

旅行・観光関連では、道内や首都圏等からの団体客の入込みが増加しているほか、高速道路の一部区間の開通の影響もあって、一部に個人客の増加が窺われる。すなわち、とちかち帯広空港の乗降客数(11月)は、2か月連続で前年を上回ったほか、十勝川温泉の宿泊客数(10月、4社)や市内ホテルの宿泊客数(10月、8社)も、引き続き前年を上回った。

(住宅投資)

弱めの動きを示しており、新設住宅着工戸数(10月)は、3か月連続で前年を下回った。

(公共投資)

公共工事請負金額(11月)は、5か月振りに前年を下回ったが、持ち直しの動きがみられる。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

(農業・食料品)

生乳生産量（10月）は、引き続き前年を若干上回ったほか、乳製品生産量（10月）も、本州における生乳生産の回復等に伴う道外移出の減少から、引き続き増加した。

管内の製糖工場では、夏場の高温から不作となった前年よりもてんさいの収量が増えたことから、原料処理量、産糖量（10月）は前年を上回った。

(木材)

製材品の生産量（10月）は、輸出用梱包用材など一部品目の受注に海外経済減速の影響などがみられているものの、増産が続いている。

(電力消費)

電力消費量（10月、除く電灯）は、大口電力が電気機械、化学工業等で引き続き増加しているものの、省エネ意識の高まりなどの影響から、全体では引き続き前年を下回った。

(労働需給)

求職・求人状況（10月、常用）をみると、前年に大型求人がみられたことから、新規求人数の伸びが縮小（前年16.5%→今年0.5%）したものの、有効求人倍率は0.66倍と前年同月並みの高水準となった。

(企業倒産)

企業倒産（11月、負債額10百万円以上）は、件数1件、負債額15百万円となった（前年は0件）。

4. 金融情勢

(預金動向)

帯広市内金融機関の実質預金残高（10月末）は、年金資金の歩留まりなどを主因に、引き続き前年を上回った。

(貸出動向)

貸出残高（10月末）は、法人向けが低調なため、ほぼ前年並みとなった。

この間、貸出約定平均金利（10月末、総合）は、信金が低下した一方、銀行は既往の低利融資の返済により上昇した。

(銀行券)

銀行券の動き（11月中）をみると、発行額、還収額ともに前年比減少した結果、発行超額は47億円と前年（51億円）を下回った。

以上